



Merry  
Christmas



and Happy New Year !

## 福島訪問

11月、コロナ感染第2波が落ち着き、第3波が来る前に、意を決して福島を訪ねました。

できる限りの感染予防を持って旅に出ました。感染させない、感染しないを心に固くとめてマスク、アンチウイルス・スプレー、フェースシールド、体温計とコロナ対策七つ道具を揃えて、神経を張り詰めての訪問でした。

と一緒に活動させていただいている皆さんを訪ねた時、とても喜んで迎えてくださったことにホッとしたと同時に、深い感謝を覚えました。

エゴマ農家の渡部さんのところに新しい家族が増えていました。ヤギさんが来ていて、その子に子ヤギが生まれていました。



どこでも手に入れられない「エゴマ蜂蜜」を求めたかったのですが、残念なことに今年には取れなかったとのこと。理由を聞いてちょっと恐ろしくなりました。エゴマに花の付きが悪かったとのこと。それで、蜂蜜だけでなくエゴマ油も品薄。なぜ、花の付きが悪かったのか？どうも自然現象が関係しているのかもしれないと。10年前のあの東日本大震災の前2・3年も色々例年になく変化が起こっていたという話を聞

かせてくださいました。止まる所を知らないコロナウイルス感染拡大、氷河の解凍、異常気象などなど。例年と異なる事象があまりにも多いです。環境異変に対して真剣に自らの生活様式を変えなければとあらためて気を引き締めました。大河原さんとは、ご自宅の古民家でお話ししました。コロナ下でお店の方は大変でいらっしゃるようですが、元気に過ごしておられホッとしました。堀越の“お人形様”の前の小川には赤い橋が架かっていました。震災後初めて見た橋、10年という年月を感じました。



また、「錦糸かぼちゃジャム」を作ってくださっていた稲福さんをお訪ねして、可愛いお嬢ちゃまに初めて会えました。可愛く手を振ってくれたことが今も目の前に浮かびます。笑顔がステキな母子でした。子どもの笑顔は、コロナのストレスも心配も忘れさせてくれる魔法ですね。

宿泊はいつもの通り、湯本の「古滝屋」さんです。今回は特別にこのコロナの状況の中での福島について里見社長さんからお話を伺うことができました。今後の私たちの関わり方についても的確なアドバイスをいただくことができました。本当に感謝しています。



次の日には「いわきオリーブ」さんを訪ねました。注文が入っている品々の相談、昨年の水害で受けたオリーブ畑の状況などを伺いました。

この旅に関しては、代表理事の植木さんがカトリック新聞に書いてくれました。



## 「東日本大震災・原子力災害伝承館」

2020年9月20日にオープンした「東日本大震災・原子力災害伝承館」については前号でも書きました。が、今回の福島訪問の一つの目的は自らの目でこの伝承館を見ることと、双葉町に入ってその場が語りかけてくることを感じることにありました。

双葉町には今まで入ることができませんでした。緊張感が私たちを包み込みました。6号線を走りながら、いつものように、道路に設置してある線量計、私が持っている線量計とにらめっこです。大熊町、双葉町と近づくにつれて線量計は上昇していきました。車の中ですが・・・0.84、0.92、1.06、1.18、1.29、1.72、1.87、1.94、2.00 全身に力が入ってくるのがわかり、身構えているようでした。



双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」



の前の広場に設置されていた線量計は0.055を表示していました。



大型バスで、高校生と思しき生徒たちが多数、見学に来ていました。

ちなみに、昨日新幹線で郡山駅に降りた時の、駅を出たターミナルに設置されている線量計は0.119と表示していました。

初めて6号線の大熊の出口で降りました。大熊の出口も使用可能になっているんだと。



双葉町に入って、「あら、除染のフレコンバックがないですね！？もう片付けられたの？」とんでもない、10年経った今やっと除染が始まったばかりだったのです。取り壊し中の家も。もちろん“伝承館”への道筋、伝承館の周りは綺麗に整備されていましたが。



道中除染トラックが何台も連なり、多くが集結していました。

コロナ感染で大変だった1年、1日も早い感染終息を願い、また、皆様の支えに感謝を申し上げます。どうぞ恵みに満ちた新年をお迎えくださいますように。私たちは自分たちにできる小さなことを来年も地道に続けていきます。新しい年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。感謝を込めて 野上幸恵